

待ちに待った新型コロナワクチン

Point!

1. 新型コロナワクチンの
緊急使用許可を申請

2. ワクチンとは

3. 新型コロナワクチンの
今後の見通し

新型コロナワクチン緊急使用許可を申請

ファイザーは2020年11月20日、ビオンテックと共同開発し、最終段階の臨床試験を行っていた新型コロナウイルス向けのワクチンについて、米食品医薬品局(FDA)に緊急使用許可の申請を行いました。FDAでの審査が順調に進めば、2020年12月中旬には緊急使用許可が承認される見通しです。

ワクチンとは

ワクチンとは感染症の予防接種に使用する薬液のことで、ワクチンを接種することでウイルスに対する免疫をつくり、病気にかかりにくくするなどの効果が得られます。「生ワクチン」や「不活化ワクチン」といった従来型のワクチンは、毒性を弱めたり無毒化したウイルスを利用してつくりまします。人での実績もあり免疫もつきやすいと考えられますが、開発に時間がかかるのが難点です。2020年11月12日時点で臨床試験の最終段階に入っている新型コロナのワクチンの多くは、「mRNAワクチン」や「ウイルスベクターワクチン」といった新しいタイプのワクチンです(図1)。「mRNAワクチン」は、ウイルスの遺伝情報を持ったmRNA(メッセンジャーRNA)を体内に入れるもので、今回ファイザーとビオンテックが開発したワクチンは「mRNAワクチン」に分類されます。「mRNAワクチン」や「ウイルスベクターワクチン」は比較的短期間で開発可能ですが、承認・実用化された例が無い(mRNAワクチン)、またはほとんど無く(ウイルスベクターワクチン)、安全性や効果について指摘されてきました。

新型コロナワクチンの今後の見通し

ファイザーとビオンテックは、2020年中に最大5,000万回分(2,500万人分)、2021年中に最大13億回分(6億5,000万人分)の生産を目指しています。ワクチン開発に成功した場合、日本に2021年6月末までに1.2億回分(6,000万人分)を供給することで基本合意しており、日本国内でも臨床試験が進められています。モデルナの「mRNAワクチン」やアストラゼネカとオックスフォード大学の「ウイルスベクターワクチン」等も臨床試験の最終段階に入っています(図2)。モデルナは11月16日、アストラゼネカは11月23日、いずれも最終治験のデータから高い有効性が得られたと公表しており、実用化に向けて当局への申請等の準備を行う見通しです。

・・・(図1)ワクチンの主なタイプと特徴

	ワクチンのタイプ	特徴
従来型のワクチン	生ワクチン	ウイルスの毒性を弱めて病原性をなくしたものを原材料としている。
	不活化ワクチン	ウイルスの感染する能力を失わせて(無毒化して)、免疫をつくるのに必要な成分を原材料としている。
新しいタイプのワクチン	mRNAワクチン	ウイルスの遺伝子情報を持ったmRNAを、脂質などのナノ粒子に組み込んでワクチンにする。
	ウイルスベクターワクチン	ウイルスの遺伝子の一部を、人に病気を起こしにくい別のウイルスに入れて体内に運ぶ。「ベクター」とは遺伝子の運び屋を意味している。

(出所)各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

・・・(図2)主な新型コロナ向けワクチンの開発状況

段階別開発ワクチン数

(2020年11月12日時点)



(2020年11月20日時点)

開発企業・機関名	ワクチンのタイプ	ステータス
ファイザー/ビオンテック (米国/ドイツ)	mRNAワクチン	緊急使用許可申請
モデルナ(米国)	mRNAワクチン	Phase3
アストラゼネカ/オックス フォード大学 (英国)	ウイルスベクター ワクチン	Phase3
ジョンソン&ジョンソン* (米国)	ウイルスベクター ワクチン	Phase3

臨床試験は第1相臨床試験(Phase1)、第2相臨床試験(Phase2)、第3相臨床試験(Phase3)の順にすすみます。

*医薬品部門であるヤンセン ファーマシューティカル カンパニーズが開発中

(出所)厚生労働省HP、WHOの資料等を基に三菱UFJ国際投信作成

【本資料に関するご注意事項等】

投資信託のリスクとお客さまにご負担いただく費用について

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債およびリート等の値動きのある証券を投資対象としているため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資にあたっては投資信託説明書(交付目論見書)、目論見書補完書面等をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

■購入時(ファンドによっては換金時)に直接ご負担いただく費用

購入時(換金時)手数料・・・上限 3.3%(税込)

※一部のファンドについては、購入時(換金時)手数料額(上限 38,500円(税込))を定めているものがあります。

■購入時・換金時に直接ご負担いただく費用

信託財産留保額・・・ファンドにより変動するものがあるため、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を表示することができません。

■投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用(信託報酬)・・・上限 年率3.41%(税込)

※一部のファンドについては、運用実績に応じて成功報酬をご負担いただく場合があります。

その他の費用・手数料・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)、目論見書補完書面等でご確認ください。

※その他の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計金額等を記載することはできません。

《ご注意》

上記のリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三菱UFJ国際投信が運用するすべての公募投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)、目論見書補完書面等をご覧ください。

【本資料のご利用にあたっての注意事項等】

■本資料は、ヘルスケア関連の情報をご提供するために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

■クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

本資料の作成は



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

FP20-06604